

なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ
五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第23回

おーいにおーい

イオンモールつくばで通路のソファに座ってスマホを見始めたら、近くに座る高齢の男性のやや大きい声が聞こえてきた。耳が少し遠いのかも知れない。年齢は八十代くらいか。知り合ったばかりらしい連れの七十代くらいの男性に話しかけている。

「わたし、出身は行方市なんですよ」
 この言葉で彼にぐっと親近感が湧き、つい聞き耳を立ててしまう。

「震災のときに、テレビでよく流れた詩の一説のね、こだまでしょうか、ってあったでしょ。あの、こだまは、こだまする、のこだまだけど、わたし、その前に、必ず小玉スイカの小玉を思い浮かべてしまう。そんな無粋な人間が、俳句なんてできるわけないと思っただんですが、ずうずうしく参加してしまったわけなんです」

彼の話が続く。

「で、今日のわたしの妙ちくりんな作品は、大きな気づきを表したかったわけなんですよ。＼おーいお茶＼のおーいは、ずっと、家族にお茶をいれてほしいと頼むための声掛けの意味だとか思っっていなかったんですが、たまたま見た日本映画で若い女優が山に向かって大声で＼お元気ですかー＼って呼びかける場面に感動して、おーいお茶もね、お茶畑に向かっておーいと呼びかけているような、おおらかな

シーンが思い浮かんできて。それをきっかけに、おーいにおーい、と呼びかける七文字を思いついたんです」

彼は、中七（なかしち）と呼ばれる五七五の七音の部分に、その語を入れて俳句を作ったようだ。その七音の上下の五音にはどんな言葉を入れたのかしら、と話の続きを楽しみにしている

と、もう一人の連れらしい人がやってきて話はそこで途切れてしまい、三人はどこかに行ってしまった。
 レンガさん（彼はレンガ色のジャンパーを羽織っていた）、面白い方だったなあ。私はこれまでに、いつごろおーいと言ったのだろう、筑波山で言った気がするけど、どうだったか。言わなかったかもしれない、と、おーいについてあれこれ考えることになった。
 今度、行方を訪れたとき、霞ヶ浦かどこかの森に向かって、おーい、と声をあげてみたくなった。

小林 光恵さん



20代後半の3年ほど、俳句集の編集の仕事をしていました。俳句の知識を少し持てた、貴重な経験でした。

行方市出身。つくば市二の宮在住。月に2〜3回ピクニックボールを楽しんでいます。体を動かすだけではなく、ボールを打ったときの独特の「カン！」という音を聞くと、すっきりします。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。サイトはこちらから▶



地域おこし協力隊

連載コラム ⑳

皆さん、こんにちは。

本年2月に、行方市地域おこし協力隊員として着任したダシツエレン（ダシカ）と申します。モンゴルの首都ウランバートル出身です。

私は2004年に、日本政府の国費留学生として初めて来日しました。その後、日本語予備校や大学に通いながら、東京都内で約10年間生活しました。学生時代には、学校の長期休暇を利用して、日本語予備校の同級生や同胞のモンゴル人を訪ね「青春18きっぷ」を使って、各地を旅することがありました。旅先で出会った地元の方々の温かさや、地方ならではの雰囲気に触れる中で、都会ではなかなか得られない貴重な経験を重ね「いつか日本の地方で暮らしてみたい」という思いを強く抱くようになりました。しかし、当時はその夢を実現することなく、モンゴルへ帰国することとなりました。

モンゴルでは、40歳は「第2の人生」の始まり、いわば人生の折り返し地点とされており、新しい挑戦に胸を膨らませる時期だと言われています。

今回の来日は、私にとって人生で2度目の日本での生活であり、しかも「第2の人生」の節目での挑戦で



▲サ・ダシカ 隊員

【令和8年2月1日〜現職】
 企業誘致の際などに企業が求める人材ニーズ調査や、これまで交流を深めてきたモンゴルの自治体・教育機関と連携を図っています。本名は、サンダグドルジ・ダシツエレン

す。これまでの経験と人生の節目が重なった今だからこそ、一時的な滞在ではなく、地域に根ざした形で挑戦したいと考えています。

行方市での暮らしは、今後のキャリア形成や子育ての面においても新たな挑戦となります。地域おこし協力隊員として、自身の経験や異文化の視点を生かし、地域の魅力発信や人と人をつなぐ役割を果たしていきたいと考えています。

行方市には、自然と暮らし、人と距離の近さが共存する魅力があり、私が長年思い描いてきた地方暮らしの理想と重なる部分を感じています。かつて若き日の私が、地方で受けた感銘と同じように、自分の息子たちにも、行方市で人情やおもてなしを感じながら、のびのびと成長してほしいと願っています。

（次号は、佐藤隊員が担当します。）



▲行方市での生活を家族と楽しみたいと思います。